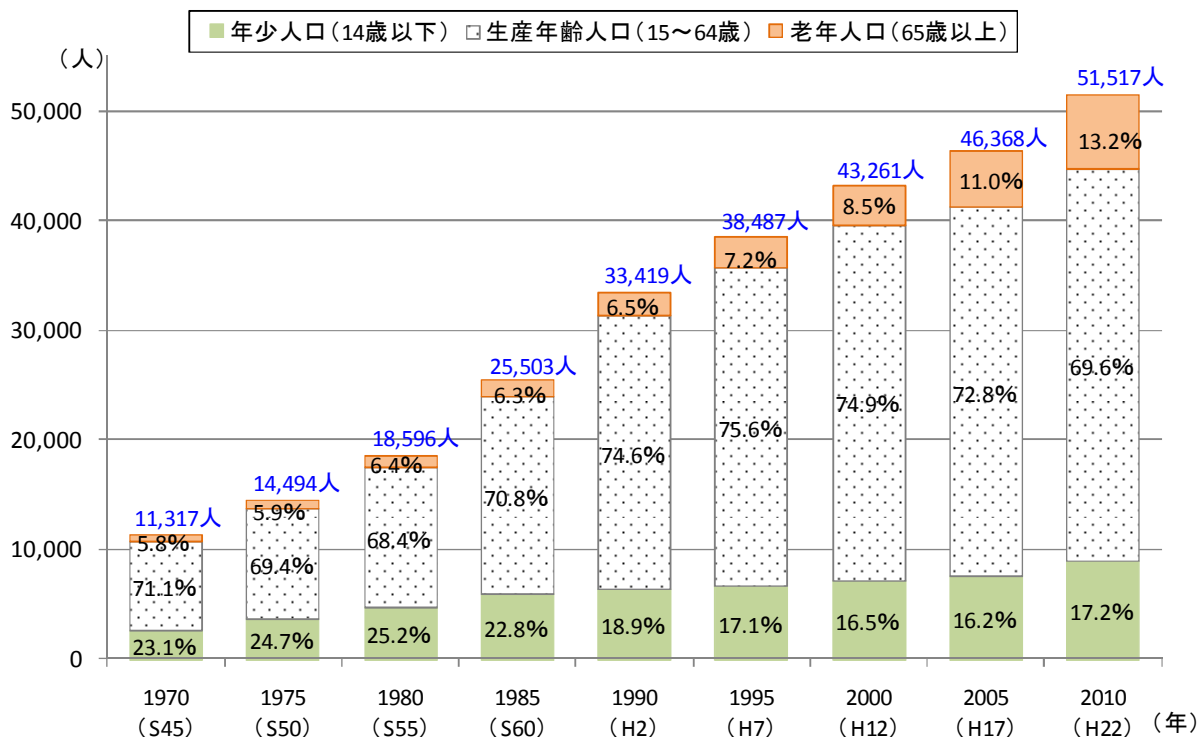


長久手市の人口に関する現状等について

人口の動向

＜長久手市の人口の推移＞

○人口は増加傾向(2010年時点で52,022人)



年齢3区分による人口の推移 (1970-2010)

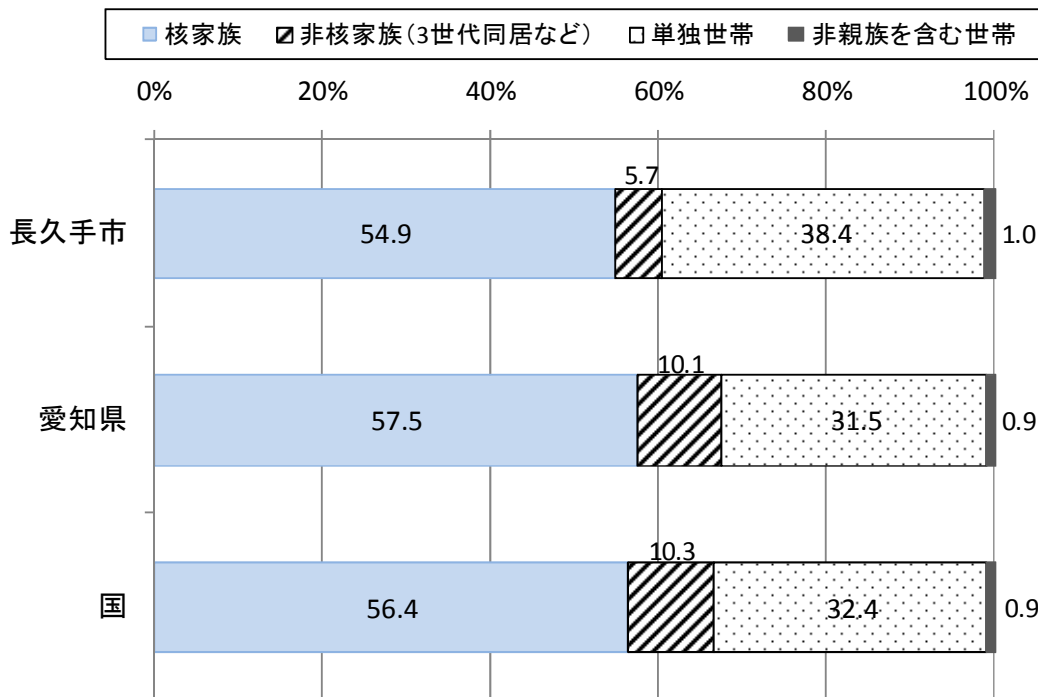
＜世帯の家族類型＞

○長久手市は県や国よりも、大学生や独身者等の一人暮らしが多い

○3世代同居などの割合は県や国よりも低い

⇒比較的若い核家族や大学生による転入が多い

⇒転入者が多いことを併せて考えると、出産しても身近に子どもを預けられる人が少ない状況であると考えられる

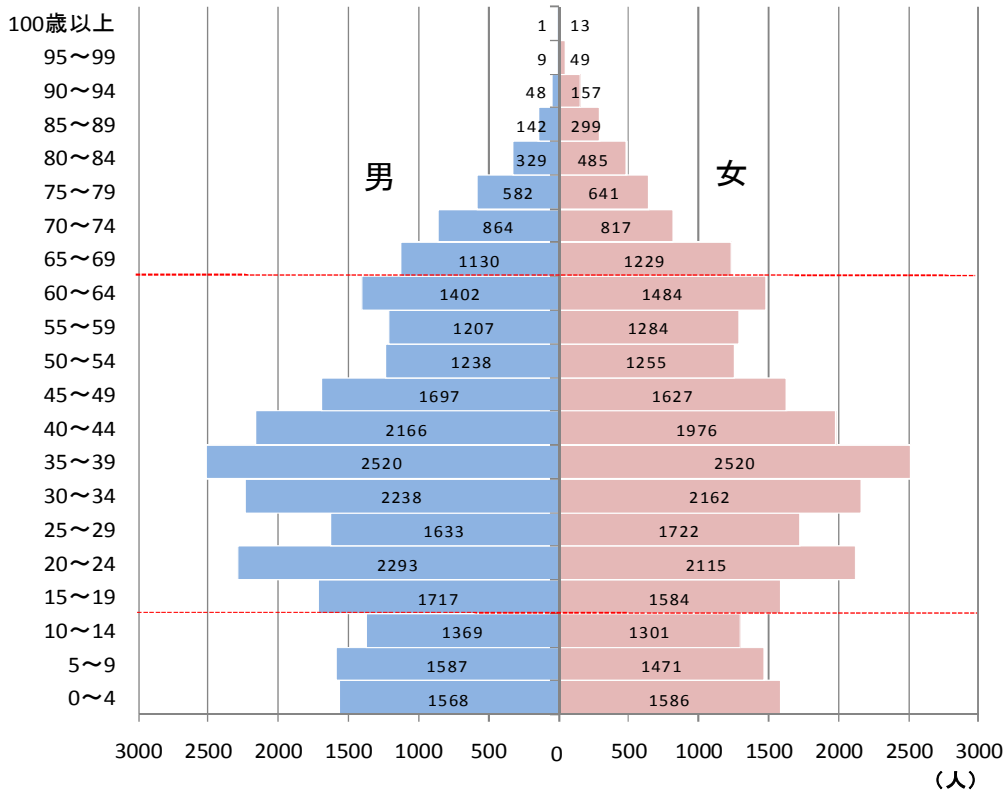


世帯の家族類型別の割合

人口の動向

<現在の長久手市の人口ピラミッド>

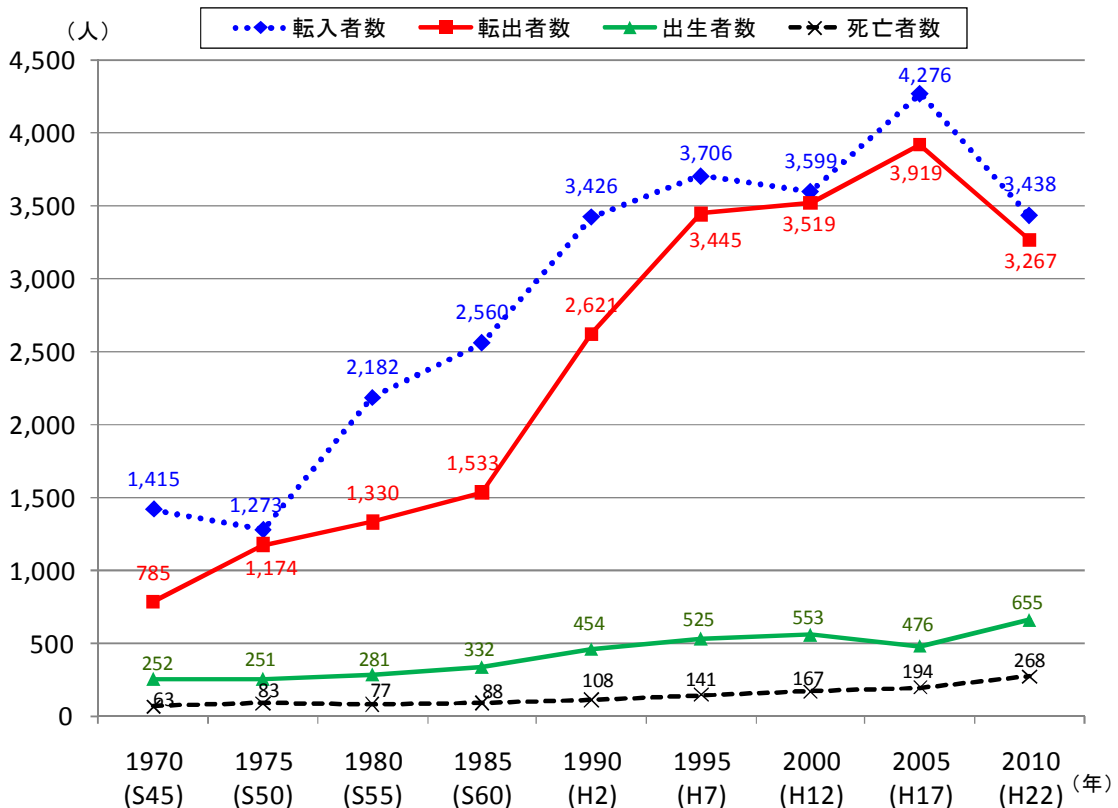
- 20～24歳と30～44歳の年齢層が多く、高齢者が比較的少ない
- ⇒現在の若年層が、2040年頃から高齢者となり始める
- ⇒高齢者が健康であり続け、活躍できる場づくりが課題となる



人口ピラミッド(5歳階級別人口)

<社会増減と自然増減>

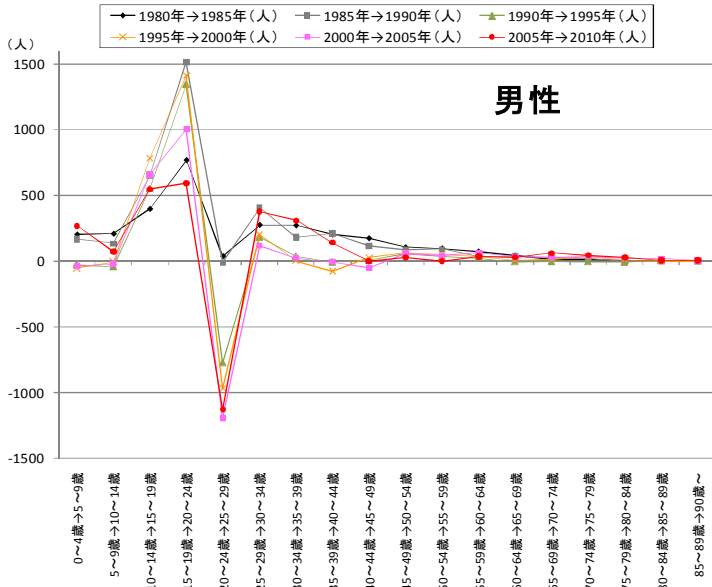
- 転入者数が転出者数を常に上回っている(継続的な社会増)
- 出生者数が死亡者数を常に上回っている(継続的な自然増)



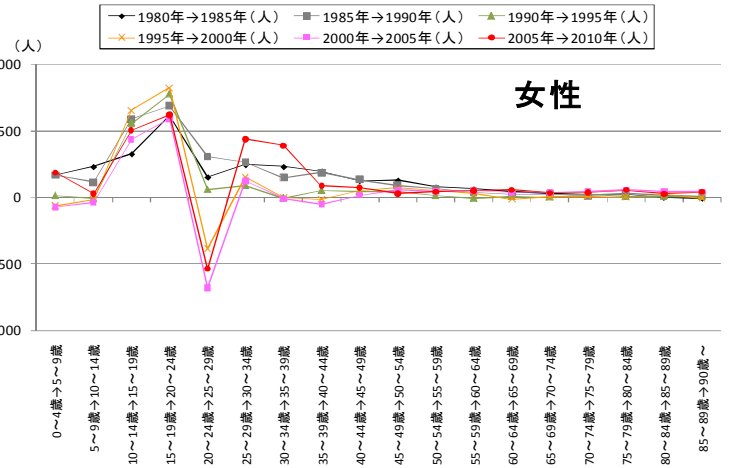
転入者数、転出者数、出生者数、死亡者数の推移(1970-2010)

人口の動向

＜年齢階級別の純移動数＞
 ○男女ともに20歳前後の転入が顕著
 ○男女ともに25歳前後の転出が顕著（1990年以降は特に25歳前後男性の転出が顕著）
 ⇒長久手市内及び周辺大学の学生の入学に伴う転入と卒業に伴う転出による影響
 ○2005年以降、30歳代の転入が増えている
 ⇒長久手市から通勤できない勤務地に就職する男性が多くなっていると考えられる

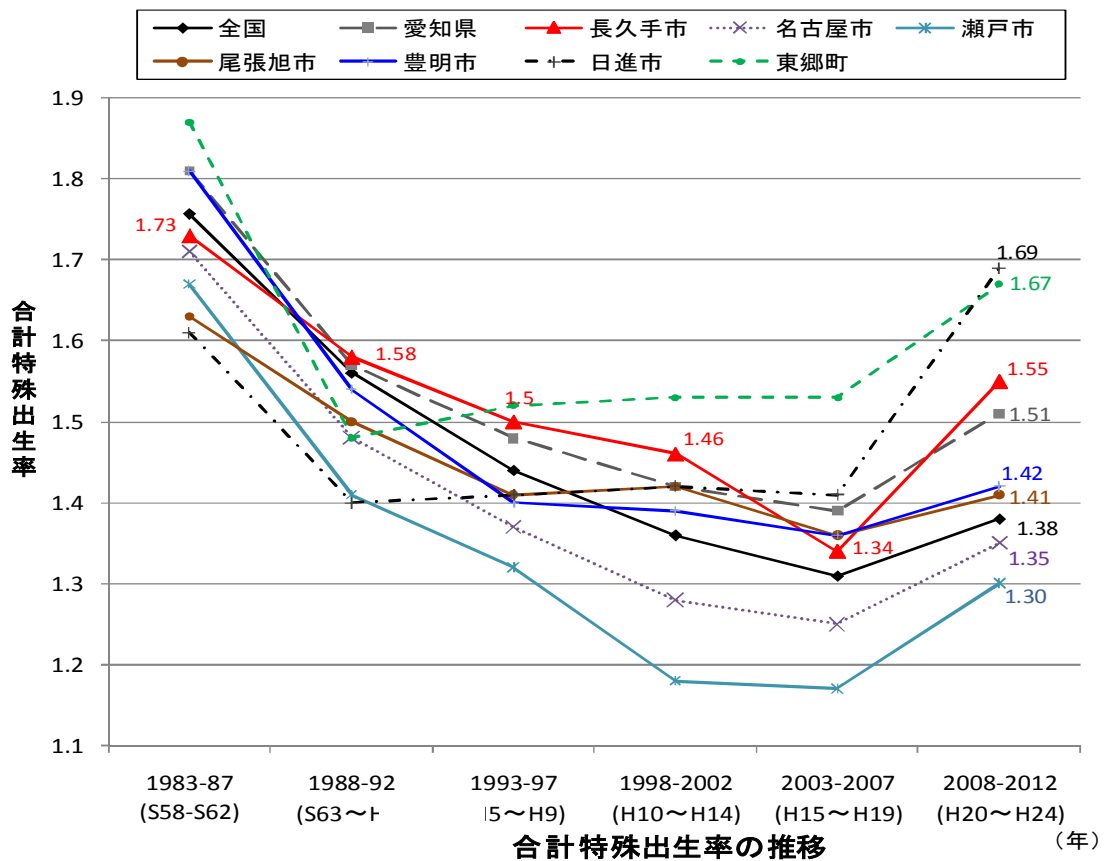


年齢階級別の純移動数の時系列変化(男性)



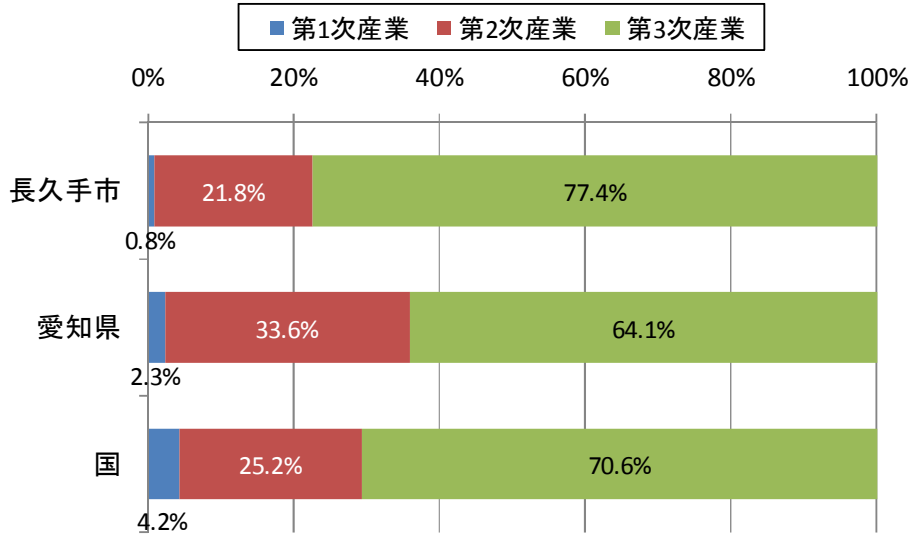
年齢階級別の純移動数の時系列変化(女性)

＜合計特殊出生率の推移＞
 ○2007年まで下降していたが、その後大きく上昇
 ○他の近隣市町村と比べて、比較的高い出生率
 ⇒比較的若い世帯が多く転入し、子どもを産んでいることが考えられる



<産業別の就業者構成比>

○国や県と比べ、第3次産業就業者の構成比が高い
⇒サービス業等の就業者の割合が高い

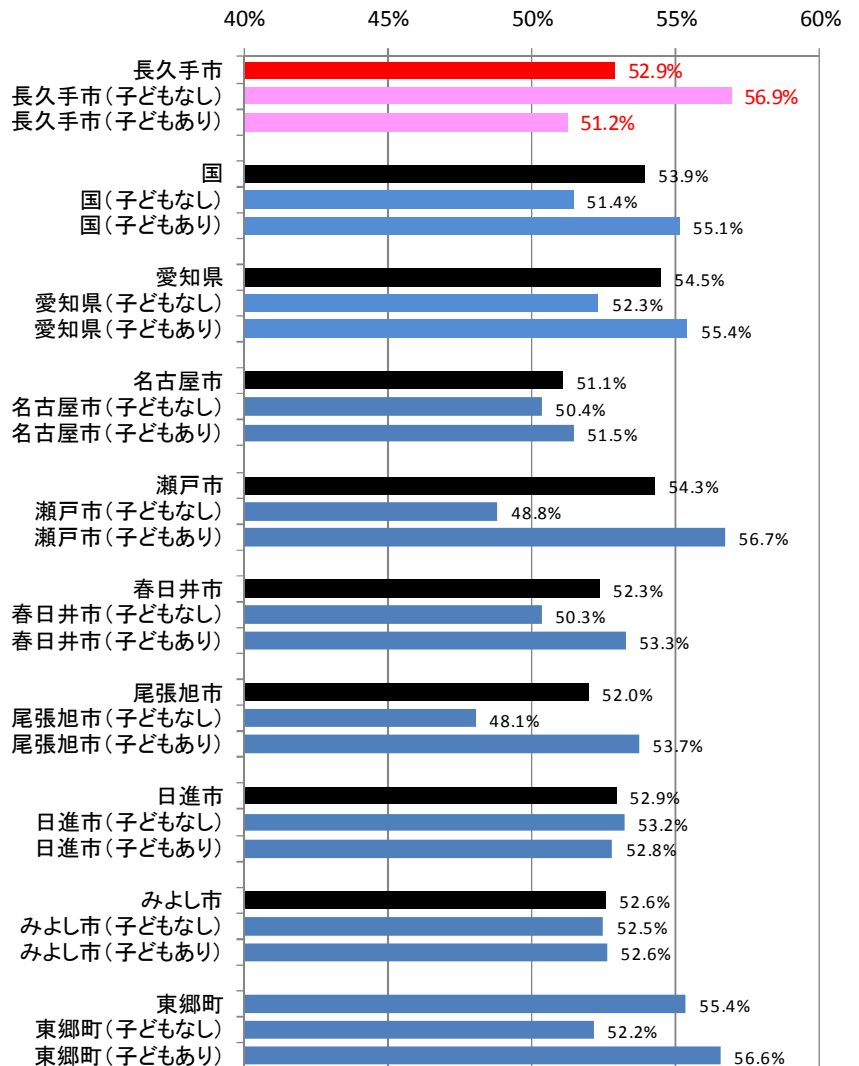


産業別の就業者構成比

共働き率

※「共働き率」=【夫婦ともに就業者の世帯数】/【夫婦のいる世帯数 - 夫婦ともに非就業者の世帯数】× 100%

○子どものいない世帯の共働き率が子どものいる世帯の共働き率よりも高い(多くの市町村は逆の傾向を示す)
⇒子どものいない夫婦が転入し、出産してからは、退職してしまう人が多いことが考えられる



共働き率

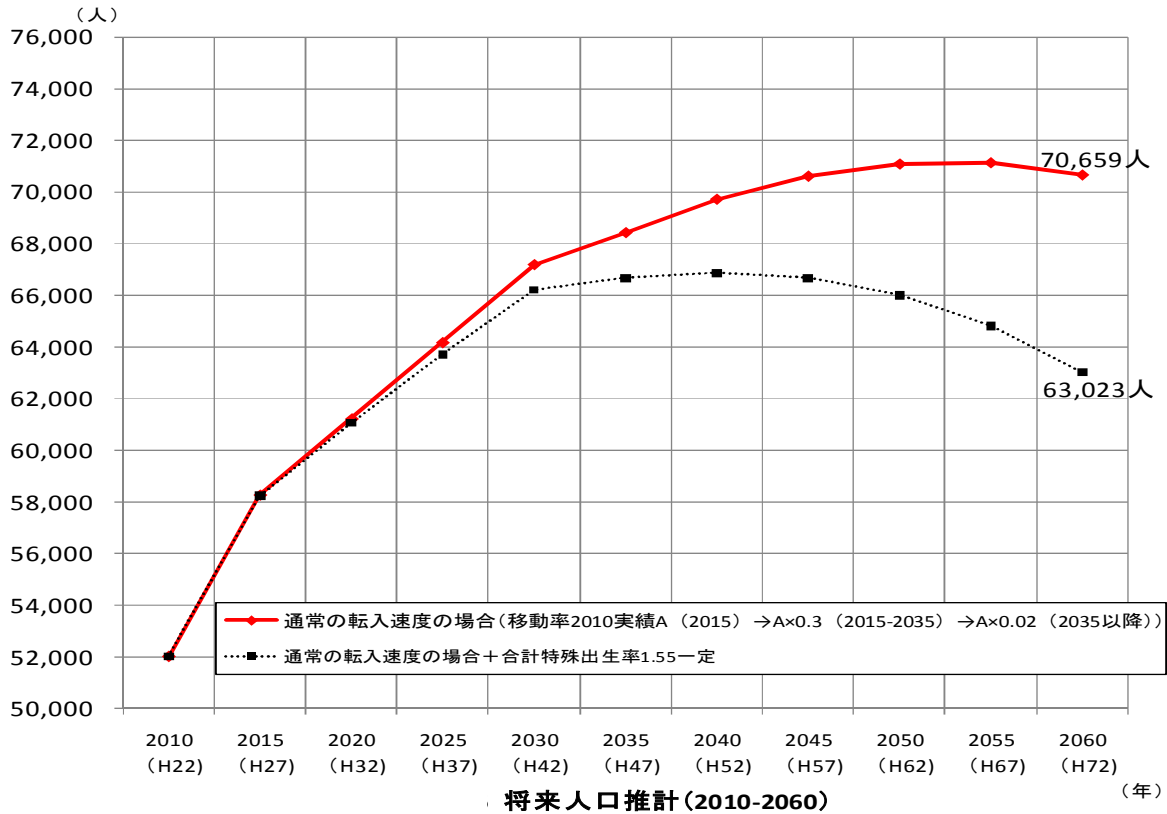
人口ビジョン(長久手市)

＜長久手市の将来の人口ビジョン＞

グラフ: 赤ライン=合計特殊出生率が上昇に転じたケース

黒ライン=合計特殊出生率が現状のまま推移したケース

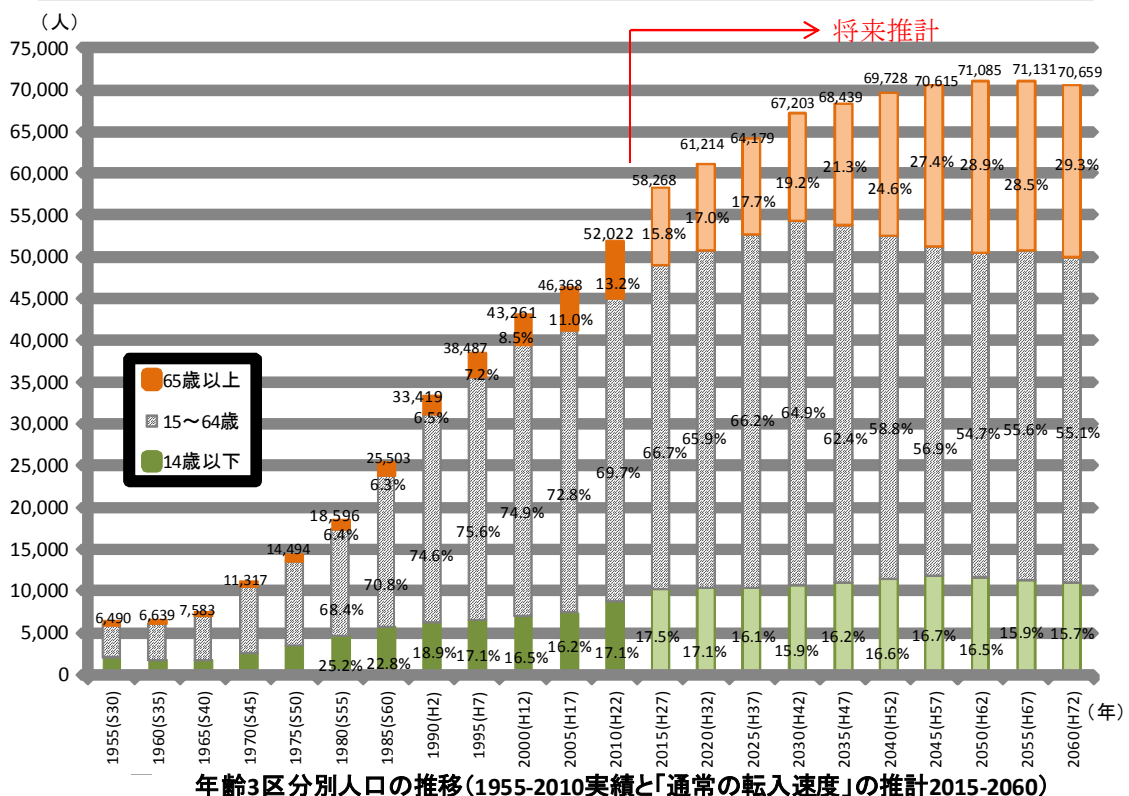
○今後は、出産・子育て支援、地域の魅力や住みやすさの向上、交流による地域活性化を進め、2060年に70,000人程度の人口となることを目指す。



＜長久手市の将来の人口ビジョン＞(2060年に70,000人程度の人口維持のケース)

○2050年頃まで高齢者は増え続け、構成比も高まる傾向にある

○生産年齢人口の構成比は、2030年頃から大きく減少する



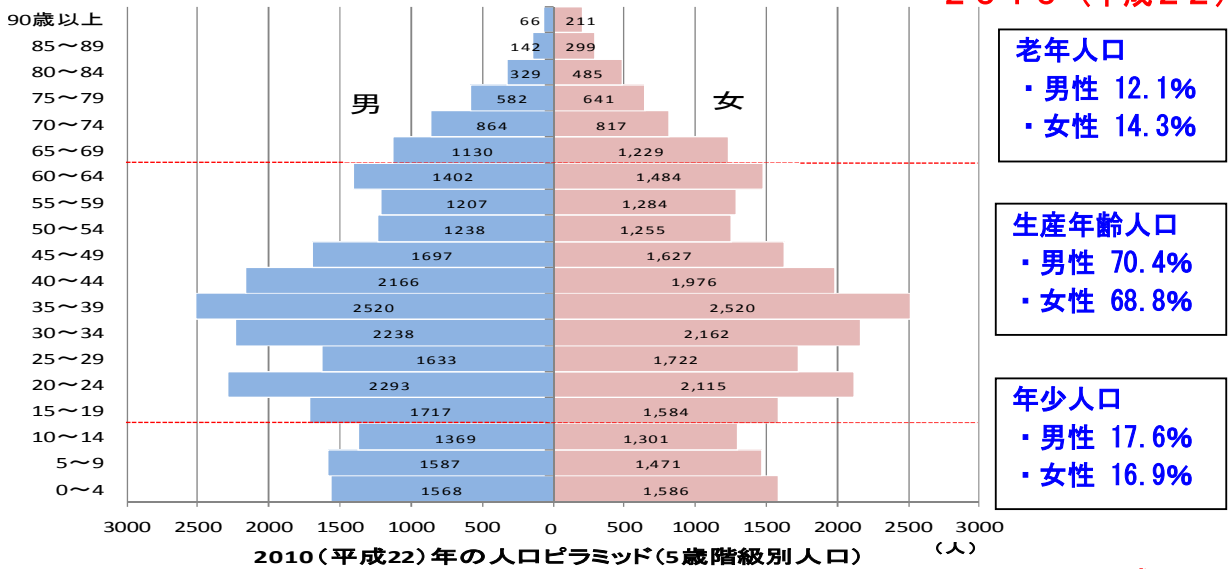
人口ビジョン(長久手市)

長久手市の人口ピラミッド

〈2010→2060の特徴〉

- ・老年人口が増加
- ・年少人口も増加
- ・生産年齢人口が減少

2010(平成22)年

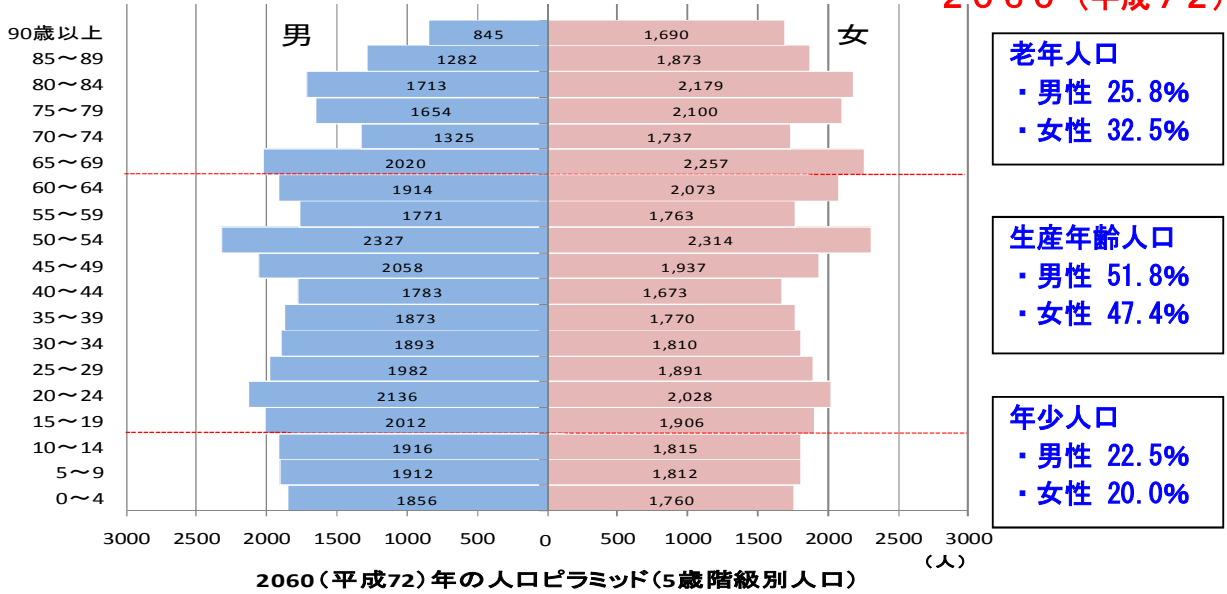


老年人口
・男性 12.1%
・女性 14.3%

生産年齢人口
・男性 70.4%
・女性 68.8%

年少人口
・男性 17.6%
・女性 16.9%

2060(平成72)年



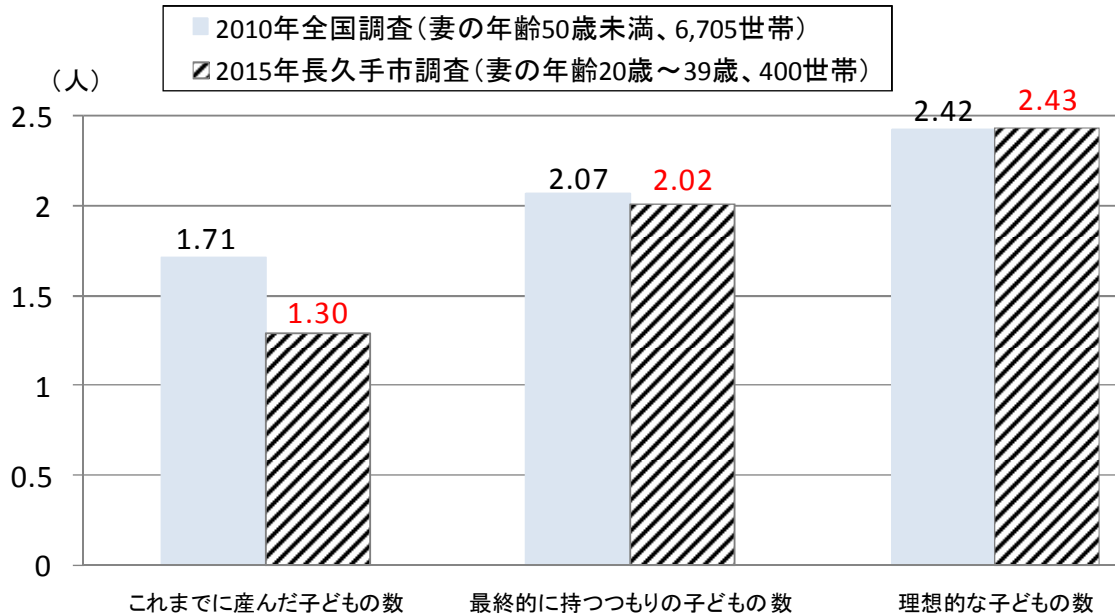
老年人口
・男性 25.8%
・女性 32.5%

生産年齢人口
・男性 51.8%
・女性 47.4%

年少人口
・男性 22.5%
・女性 20.0%

<アンケート>

Q. これまでに産んだ子供の数・最終的に持つつもりの子どもの数・理想的な子どもの数
 ⇒【結果】理想的な子どもの数と最終的に持つつもりの子どもの数が
 全国と比べて大きい(理想と現実とのギャップが大きい)

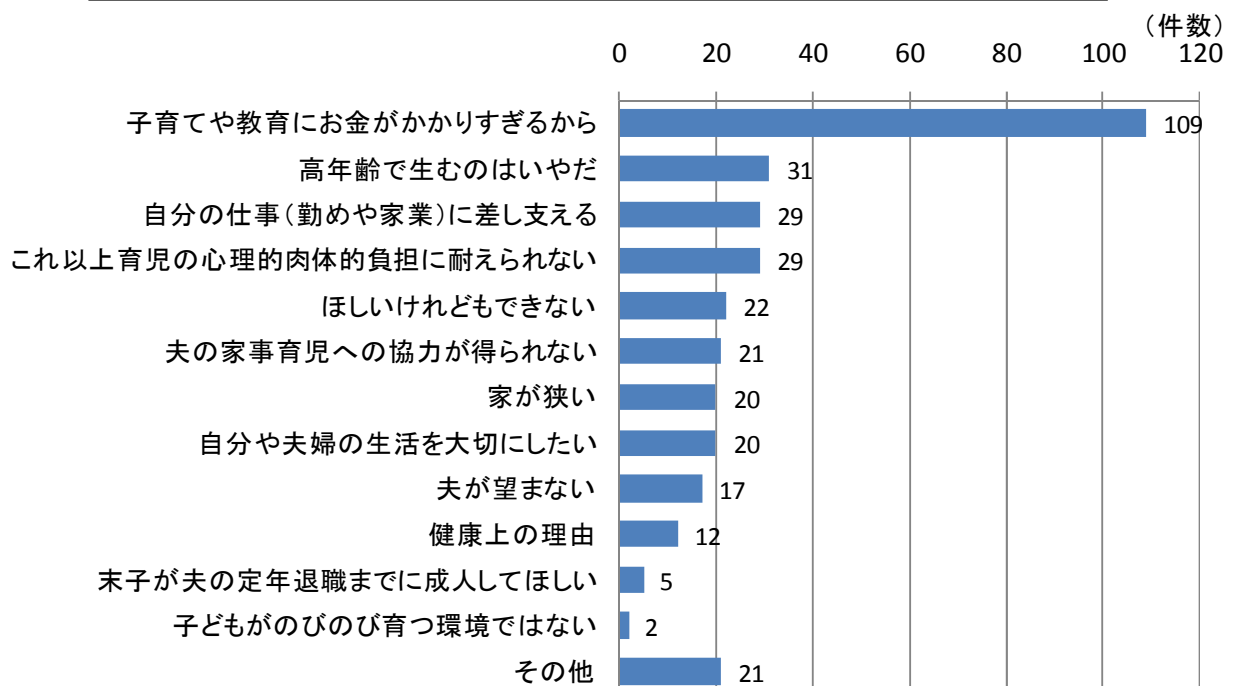


持つ子どもの数(平均)に関する全国と長久手市との比較

<アンケート>

Q. 持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由

⇒【結果】「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」とする回答が最も多い(経済的な理由により理想とする子どもの数に至っていない)



持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由(複数回答、N=170)

目指すべき将来の方向

今後しばらくは土地区画整理事業や宅地開発等により転入超過が続き、人口は増加するが、団塊ジュニアの層が高齢となり始める2040年頃から高齢者を支える生産年齢人口の割合は低下

長期的な視点に立って、出産・子育ての支援や市民の定住を促し、適正な人口構成を維持するとともに、高齢者の増加への対策を実施していく必要がある

<目指すべき将来の方向>

- 合計特殊出生率は近隣自治体の中では高く、世帯の経済状態を考慮すると、今後の伸びも期待できることから、結婚・子育ての支援が有効（アンケート結果から支援施策の推進により、子育て世帯が、より多くの子どもを持つようになる可能性がある）
- 転入者が多く、子どもを預けられるような人が身近に少ない状況はあるが、今後、地域のつながりを密にしていくことで改善の糸口に
- 市内に多く居住している学生は、インターンシップや地域活動を通じて、若者のスキルアップや観光交流の担い手として期待